

クマノミズキ



(撮影：桐原真希)

大木屋にて

梅雨時、国道180号線を南へ走ってみましょう。日南町との町境にある大木屋に入ると、道路沿いに白く目立つ花が車窓を彩ります。その正体はクマノミズキ。花のない季節には気付きにくいのですが、シーズンになると、こんなに生えていたのかと驚く程、沿線から楽しめます。ミズキ科の落葉高木で、本州、四国、九州で見られ、国外では朝鮮半島、中国、台湾、ヒマラヤなどに分布しています。国内では主に西日本に多く、雪国では少ないとのこと。宮崎県椎葉村では、クマノミズキを「アワミズシ」と呼び、花の咲く時期を粟の種まきをする目安にしていたそうです。漢字で書くと「熊野水木」。三重県熊野地方で発見されたことが由来になっています。

クマノミズキのそっくりさんで、ミズキという名の同じグループの木があり、遠目からでは、どちらか見分けるのは大変です。枝葉を近くで見ることができれば、次のチェックポイントを確認してみましょう。葉のつき方が、対生（茎から

左右対称に2枚生えている）になつていればクマノミズキ、互生（茎から交互に葉が生えている）だったらミズキです。またミズキの葉は幅広く、クマノミズキは葉の形はミズキに比べてやや長細く見えます。そして、花の季節がミズキから約1ヶ月遅れで咲きます。これはお互いの種が交雑を避けるための戦略の一つと言われています。両種とも、花にはチヨウやカミキリムシの仲間が、秋に実る黒い果実には小鳥たちが集まってきます。

皆さんのお知り合いで、「みずき」というお名前の方はいらつしやいますか？下のお名前が標準和名の生き物の種名そのままという、まさに図鑑に載っているお名前に、生き物好きとしてはとても親しみを感じます。先日、インターネットで調べてみたら「くまのみずき」というお名前の方が数名実在されていることを知り、人と生き物の名前の妙を垣間見ました。クマノミズキの町内における他の生息地も是非調べたいものです。

自然観察指導員 桐原真希